備えて安心 139

～南海トラフ地震などあらゆる災害への備え～

地域防災サポーター養成講座を開催

災害や防災対策について一定の知識と技術を持った人材を育成することを目的に開催している「地域防災サポーター養成講座」が11月18日(土)から全3講座の内容で行われ、今年度は12人の申込のうち6人が全過程を修了され、地域防災サポーターとして町の認定を受けました。

第1講座では、高知地方気象台の阿部浩二さんと山内幸治さんを講師に迎え、南海トラフ地震の仕組みや、日頃起こりやすい台風、大雨といった風水害などについての講義をいただきました。

第2講座は普通救命講習として、黒潮消防署員より救命に関する知識と技能を身に付け行動できるよう、心肺蘇生法とAEDの操作について学びました。

また、第3講座では、阪神・淡路大震災の被災経験を持つ北淡震災記念公園・米山正幸総支配人に、被災した直後の災害活動や、日頃の地域の繋がりの大切さなど、今後の備えについて講話いただきました。また、実技講習として、日本防災士会高知支部の土居清彦さんから、搬送方法やロープワーク、身の回りにある物の利用法など実践的な技術を学びました。

南海トラフ地震では、様々な被害が予想されますが、一人ひとりの備えが大きな効果を生み、備える人が増えることで安心して暮らせる地域社会となります。

今後も同講座の開催を予定していますので、今回参加されなかった方も次の機会にご参加いただき、災害に強いまちづくりを一緒にめざしましょう。

第1講座の様子

自主防災力を継続・向上させよう

阪神・淡路大震災では、生存者を救出できたのは、大部分が地震発生後から3日目まででした。

このような傾向は他の大地震でもみられ、地震発生から最初の3日間は、人命を救助するために非常に重要な「黄金の72時間」と呼ばれています。

人命救助に最も大切な地震発生後の72時間を中心に、県、市町村、防災関係機関などでは、人命を救う応急活動を最優先に行います。しかし、次の南海トラフ地震では高知県の広い範囲で甚大な被害が発生し、公的な救助活動が被災地全域に行き渡らないことも想定されます。そのため、地域で助け合って救助活動を行うことが重要となります。

街路灯が寄贈されました

四国電力株式会社より街路灯が寄贈され、10月11日(水)に黒潮町役場で街路灯寄贈式が行われました。

寄贈数は3灯です。いずれの場所も夜間は暗く危険な場所でしたが、今回の寄贈によって地域安全の向上が図られました。

○街路灯整備地区

王迎、上田の口、出口地区

街路灯寄贈式

○お問い合わせ　【本庁】情報防災課 消防防災係 ☎43－2188　【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係 ☎55－3113